

平成 30 年度第 8 回かながわ食の安全・安心基礎講座 質疑応答結果

質問

遺伝子組換え食品を食べることによる健康被害等が心配であるが、そこについては大丈夫か。

また、遺伝子組換え食品は、まだまだ未開拓な領域が多い分野なのか。

回答 (大森氏)

遺伝子組換え食品を食べたことによって、病気になったり健康被害が出たという報告は、ありません。しかし、だからと言って完全に安心だということではないため、安全性審査をしてから食品が流通するという流れになっています。

また、遺伝子組換え食品の種類は、どんどん増えていきますし、増える速度も全然衰えていません。更に、本日の講義でもお話ししましたアグロバクテリウム法による遺伝子組換えに加えて、最近ゲノム編集というのが話題になっており、今月から国でその審議会が立ち上がったと聞いています。

質問

日本では、遺伝子組換え作物を栽培しているのか。

回答 (大森氏)

現在、日本ではバラを遺伝子組換えで作っているくらいで、食品となる作物は栽培していません。今後、食料危機などが起きた場合などに、遺伝子組換え作物の栽培もしくは遺伝子組換え食品を製造せざるを得ない状況が生まれる可能性はあるかもしれません。

質問

甲状腺異常の場合は、外部被ばくによるものなのか。

また、外部被ばくによる疾病はどんなものがあるのか。

回答 (桑原氏)

甲状腺の異常は、内部被ばくによるものです。

ヨウ素は甲状腺に蓄積する性質があります。呼吸や食事等から放射性ヨウ素が体内に取り込まれると甲状腺に蓄積し、被ばくします。そのため、放射性ヨウ素が環境へ放出される場合は、予めヨウ素剤（安定ヨウ素：放射性ではないヨウ素）を服用し、放射性ヨウ素が甲状腺に蓄積されないようにします。

内部被ばく、外部被ばくを合わせて 100mSv 程度以上の被ばくでがんのリスクが高まると言われています。

外部被ばくによる疾病は、血中のリンパ球の減少や異常、脱毛などが起きることがあります。

以上